

特定非営利活動法人アサザ基金
第 12 期（2010 年度）事業報告書

2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日

第 12 期（2010 年度）事業報告

—目 次—

霞ヶ浦の再生事業と学校ビオトープネットワーク-事業	3-4
環境教育事業	4-9
水源地保全事業	9-17
地域循環型社会構築に関わる事業	17-19
複数の事業にかかわる助成	19-21
自主事業	21-23
アサザプロジェクトに関する講演、発表、視察、展示等	24-25
アサザプロジェクトに関する公表成果、報道等	26-28
第 12 期事業報告書	29

アサザプロジェクトへの参加人数

2010/4~2011/3

環境教育事業	10,448
水源地保全事業	2,540
その他	386
計	16,804名

アサザプロジェクト第12期事業報告

● 湖の再生事業と学校ビオトープネットワーク-事業

アサザ基金が様々な主体と協働で行ってきた湖の再生事業は、現在アサザ基金が独自に事業を継続させている状況となっています。学校ビオトープを利用した環境教育、学校ビオトープの維持管理、アサザの系統保存と水生植物育成、市民参加による植付け等の活動を継続して実施することができました。2009年4月から2010年3月までにのべ10,177名（総数）が環境教育や水草の植え付け等に参加しました。

○ 植生帯復元地区への植付け

霞ヶ浦・北浦に造成された11ヶ所の浅瀬等を利用し、湖岸植生帯の再生を目指して、アサザ、ヨシ、マコモ等の植付けを行いました。ビオトープから苗の株分けや、アサザやヨシ、マコモなど植生帯復元地区へ植付ける苗の準備や植付けの指導を行い、この活動を3地区（境島・根田・大船津）で29回実施し、小学校の子どもたちや地域の方々、企業の方々のがのべ1,298名が参加しました。植え付けたアサザの株数は651株となりました。植え付け実施のためのバス移動については下記の助成をいただき実施しました。

○ アサザの里親

流域内外に設置してある114箇所のビオトープにおいて、アサザの系統保存を図るために保護育成を継続しています。系統保存を図るため、個人のアサザの里親制度は、規模を縮小しています。

○ 水郷トンボ公園の維持管理

平成10年の開園以来、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会が潮来市の委託を受け年間を通じた維持管理を行っています。アサザ基金では5月2、3日の開園作業に人員を募って参加協力しました。

○ 銚田市での谷津田ため池の維持管理

ため池ビオトープ（銚田町野友）の維持管理を、NPO法人エコタウンほこたの協力により実施しました。

○ 駅ビオトープの維持管理

JR常磐線高浜駅、石岡駅2ヶ所の駅ビオトープの維持管理を行いました。

○ 学校ビオトープの設置と管理

これまでに設置してきた学校ビオトープの環境維持を行いました。生物調査を実施、植物の量の調整や管理上問題となる外来種などの除去、軽微な破損の補修を順次行いました。

○ ビオトープによる植物の保護育成の指導

学校ビオトープの補修・メンテナンス時に、児童に参加してもらい、生きものとビオトープについての学習の機会を提供しました。これらの補修・メンテナンスにはビオトープ設置校の児童も参加しました。

○ アサザの系統保存

国交省霞ヶ浦河川事務所(潮来市)、(独)水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所(稲敷市)および97ヶ所の学校ビオトープにより、35系統のアサザが系統保存されています。その他主旨に賛同した学校や団体、企業でも育成に協力していただきました。

○ 植栽地および周辺生物調査

復元地区では、再生してきた自然をより再生させるために必要な調査を適宜行いました。

● 環境教育事業

環境学習を支援する講師派遣事業「出前授業」は、小中学校の総合学習の時間等を活用して実施しました。学校周辺にある水辺での動植物の観察やビオトープの役割、生き物の体のつくりや住処を学び、生き物の目になってどうしたら人や生き物がすみやすくなるのか、子供たちと一緒に考え提案しました。まちづくりや地域ブランドづくりに発展させるなどそれぞれの地域にあった多種多様な学習プログラムを提供しました。出前授業は霞ヶ浦流域だけでなく秋田県八郎湖流域や東京都、北九州市、三重県、宮古島や多良間島、千葉県松戸市などで実施しました。NEC キャピタルソリューションの「わくわくこどもの池プロジェクト」や「シャープと気象キャスターネットワークとの協働授業」も継続しました。

2010年度は全体で298回の授業を行い、10,448名の児童生徒が参加しました。

○ 霞ヶ浦流域内での環境学習

霞ヶ浦流域では牛久市内の小中学校を除いた学校で、総合学習の時間を活用して環境教育を55回実施し、2,764名が参加しました。活動資金は10月に2度目の助成が決定した三井物産環境基金と霞ヶ浦ゆめ基金から充てました。また、潮来市の大原生小学校にUBS証券会社から約50万円の支援を受けてビオトープを造成しました。

○ 学校ビオトープから始まるまちづくり事業

(牛久市教育委員会等との協働事業 2004年度から7年目)

総合的な学習の時間において、「牛久市の自然特性の理解」「学区ごとの自然環境データの収集」を通して、「生物(他者)の視点になっての地域資源探し」を行いました。自分のまちのどこが生物と共存していく上で障害となっているのか、地域の資源を生かしてどう改善してゆけるのかを学習し、最終的には「あたらしい牛久のまち」を具体的に提案し、施策への反映を目指しました。

現在は、総合的な学習のあり方や社会参加の意欲を育てる学習のあり方が問われていますが、子ども達の想像力・総合力を伸ばし、教科学習と連動するプログラムづくりに務めました。

1. 事業報告

(1) 各学校の総合的な学習の時間において学習プログラムを実施しました。

延べ 62 回、参加総人数は 6,115 人でした。

- ・牛久小学校…学校ビオトープと学校の裏山『へび山』の野外観察・提案・作業
- ・牛久第二小学校…〈4年生〉近くの谷津田の野外観察〈5年生〉学区内に新たにできる調整池についての提案づくり（市に提出）
- ・向台小学校…近くの谷津田の野外観察（谷津田を分断する道路工事の現状調査）
- ・中根小学校…小野川・その周辺の田んぼ・学区内の屋敷林にて野外観察・お年寄りから聞き取り
- ・神谷小学校…〈4・5年生〉無農薬の米づくり（田植え、稲刈り、脱穀体験）〈4年生〉谷津田や上流・まちの野外観察・学区内の雨水対策についての提案づくり（市に提出予定）
- ・岡田小学校…小野川と上池親水公園野外観察・学校ビオトープ再造成・親水公園についての提案づくり（市に提出予定）
- ・奥野小学校…学校や牛久二中のビオトープ観察・近くの谷津田やホギメディカル谷津田の野外観察
- ・牛久第一中学校…プールビオトープの生物調査と講義
- ・牛久第二中学校…生物・自然についての総合学習補佐
- ・牛久第三中学校…〈科学部〉牛久沼再生についての科学部の活動補佐・霞ヶ浦野外観察
- ・牛久南中学校…近くの谷津田野外観察・プールビオトープ改造作業・トキについて調べ学習
- ・下根中学校…牛久バイオマスタウン構想の推進役としての学習・提案・作業

(2) 実行委員会を 2 回実施し、情報共有、意見交換を図りました。

2009 年 11 月 6 日 第 1 回実行委員会（昨年度報告と今年度計画について）

2009 年 5 月 15 日 第 2 回実行委員会（中間報告と課題解決について）

(3) 地域へ学習成果を発表し、住民へのアピールを行いました。

2010 年 1 月 30 日「カッパ大交流会（ビオトープからはじまるまちづくり事業報告会にて、市内小中学校の代表校 4 校（牛久小、向台小、牛久南中、牛久三中）の代表児童生徒が環境学習の成果を発表しました。意見交換の時間も設けられ、子ども達同士や地域の方と交流ができました。

2. 収支報告

委託 牛久市教育委員会 863,956 円（人件費）

助成 財団法人 河川環境管理財団 「河川整備基金助成事業」

（注：学校ビオトープから始まるまちづくり実行委員会としての報告）

2009年4月～2010年3月

収入		500,000円
支出		
	人件費	180,000円
	雑費	320,020円
	残額	－20円

○ 松戸・川と風を感じるまちづくりプロジェクト（2009年度より2年目）

千葉県松戸市にて、涼しい場所を好んで暮らすハグロトンボという一つの生物を指標にし、学校、地元、行政という多様なコミュニティが協力し、温暖化防止、地域活性化に取り組むまちづくり事業を始めました。本年度は、松戸市立中部小学校での環境学習にて、松戸を流れる坂川や江戸川の野外観察や、商店街の方々への聞き取りを行いました。打ち水やハグロトンボの日など、子供たちが松戸の川風をいかしたまちづくりの提案を商店街の方に発表しました。

○ 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト（2009年度より2年目）

原宿・表参道という大都市の中に、神宮の森から広がる自然の恵みを活かしたまちづくりを行い、脱温暖化に取り組めます。7、8月に、表参道に位置する神宮前小学校の子供たちと、けや木通り、明治神宮前、代々木公園をはじめとし、神宮の森から広がる風の道、生き物の道をさがす野外観察を3回行いました。

○ 「環八郎湖・霞ヶ浦アサザプロジェクト出前授業 in ハチロウキッズ」
（秋田地域振興局協働事業 2004年度から7年目）

アサザ基金は秋田県秋田地域振興局環八郎湖・流域の未来プロジェクトチームと協働で八郎湖流域の小学校を対象に2004年から毎年出前授業を実施しています。平成21年度は29回、1,398名の児童が参加しました。

8月2日にはふるさと文化館において「みんなが笑顔！未来の湖フォーラム2009」が開催され、牛久市立牛久第2小6年生が秋田県を訪問し、潟上市立大久保小6年生、大潟村立大潟小5年生の子供たちとともに学習成果発表を行いました。2月6日には、秋田の子どもたちが霞ヶ浦を訪れ、交流を深めました。これらの費用には損保ジャパン環境財団からのご支援をいただきました。

2009年3月7日（土）潟上市昭和公民館において環八郎湖・流域の未来フォーラムPart11が開催され、潟上市立飯田川小学校6年生・同市立大久保小学校5年生が学習成果発表を行いました。アサザ基金代表理事の飯島が基調講演を行い、その後の意見交換会ではパネリストとして参加しました。

収 支 報 告

秋田県土地改良事業団体	345,280円
秋田県秋田地域振興局	287,554円
秋田県山本地域振興局	202,648円
秋田県立大学	368,190円
秋田県仙北地域振興局	184,140円
損保ジャパン環境財団から協賛金（子ども達の交流事業）	400,000円
合 計	1,787,812円

○ 「大潟村トンボ実態調査」 （大潟村農地・水・環境保全向上対策推会議受託
2009年5月～2010年3月 2007年度から3年目）

大潟村では、環境保全型農業が広く進められている場所です。アサザ基金では農法と自然環境との関係性を明らかにし、それを商品価値に付与する提言を行い、自然環境指標となるトンボの調査を2007年度から行ってきました。

秋田県大潟村の大潟村農地・水・環境保全向上対策会議より、「大潟村の環境状況把握のためのトンボ実態調査」業務を受託、実施しました。

収 支 報 告

（収入）

委託費	トンボ実態調査費用	1,236,533
-----	-----------	-----------

（支出）

業務委託費	生物調査費	199,500
	調査企画・報告書作成費	518,950
	印刷費等諸費	100,000
	交通費・宿泊費	249,200
	車両借り上げ費等	110,000
	消費税	58,883
合計		1,236,533

○ 「わくわく子どもの池プロジェクト」

（NECキャピタルソリューション 2007年度から3年目）

学校を地域ぐるみで支援し、子どもたちを育てる体制づくりをNECキャピタルソリューション(株)との協働ですすめました。北九州市や墨田区や港区の小学校、金沢の幼稚園で環境教育プログラムを提供、実践し、NECキャピタルソリューション(株)社員の社会貢献・社員ボランティア育成の一環として実施しました。ビオトープの造成にとどまらず、ビオ

トープ造成から始まるまちづくりを提案する学校が出てくるなど、事業の規模と内容がともに拡大されてきました。のべ24回の授業を実施し、1,283名の子供たちが参加しました。昨年度ビオトープを造成した小学校で、やってきた生きものを観察する授業も行いました。

1. 事業報告

学校への環境教育プログラム提供

- ① 北九州市立市丸小学校 4～5年生 (22名)
- ② 墨田区立第二寺島小学校 5年生 (115名)
- ③ 墨田区立外手小学校 4年生 (53名)
- ④ 港区立筭小学校 3年生 (67名)
- ⑤ 学校法人星名学園木津幼稚園年長 (23名)
- ⑥ 墨田区立中川小学校 5年生 (22名)

2. 収支報告

(収 入)

わくわく子どもの池PJ協働事業費	1,327,924円
------------------	------------

(支 出)

人件費	697,000円
旅費交通費	326,480円
機材等消耗品費	304,444円
合計	1,327,924円

○ シャープ株式会社との協働による小学校環境教育」

(シャープ株式会社受託 2008年度から2年目)

シャープ株式会社とNPO法人気象キャスターネットワーク、アサザ基金の3者協働による全国の小学校を対象とした環境学習出前授業を下記13校で実施しました。シャープ(株)は「リサイクル」をテーマに、気象キャスターネットワークは「地球温暖化問題」をアサザ基金は「生態系保護」の立場からそれぞれ1時間ずつ授業を行いました。合計で752名の子供たちが参加しました。また、2009年度は初めて北海道でも出前授業を行うことが出来ました。

実施校

都道府県	学校名
東京都	荒川区瑞光小
福岡県	北九州市立湯川小
神奈川県	川崎市立刈宿小

茨城県	牛久市立奥野小
埼玉県	上里町立賀美小
福島県	福島市立松川小
京都府	京都市立京北第三小
大阪府	茨木市立白川小
神奈川県	川崎市立上作延小
京都府	京都市立紫竹小
東京都	中央区立明石小
静岡県	静岡市立北沼上小
北海道	小樽市立桂岡小

収 支 報 告

収 入

協働事業費	432,810 円
-------	-----------

支 出

人件費	380,000 円
旅費交通費	210,180 円
合計	590,180 円

● 水源地保全事業

○ NEC田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金

(日本電気(株)CSR推進本部環境推進部委託 2004年から6年目)

1. 目 的

霞ヶ浦の重要な水源である谷津田の復元と再生を、社員の環境意識啓発事業という位置づけで行う「NEC田んぼ作りプロジェクト」として実施し、水源地を汚染しない農業(稲作等)体験で環境意識の向上をねらう。また環境センサーを活用したアプリケーション開発の実験フィールドとしても利用する。

企業(社員啓発、新技術開発)、地元(地域振興)、NPO(水源地保全)とそれぞれの目的を満たし、共通の目標「トキ舞う谷津田」の実現を目指す。

2. 業務内容

- (1) 自然体験型環境意識啓発プログラムの一環とする全社行事の事前準備および当日運営
- (2) 全社行事の開催に必要な水田の維持管理
- (3) 次年度における全社行事の年間計画立案
- (4) その他関連・付帯する業務

3. 事業報告

2009年度は以下の日程で事業を進行しました。

全社行事のイベント6回、達人コース全26回を行ないました。

参加人数は合計のべ1,325人でした。6年間でのべ6,790人でした。

年月	日	実施内容	備考
2009年4月	10日	プロジェクト打合	NEC 我孫子
	11日	第1回達人「種蒔き、苗床」	
	16日	プロジェクト打合	
	17日	プロジェクト打合	
	21日	小屋内外片付け	
	29日	第2回達人「田起し、アゼ塗り」	
5月	9日	第3回達人「生きもの勉強会」	
	16日	第4回達人「代かき」	
	23日	第1回イベント「田植え」	
6月	6日	第5回達人「一の草取り」	アサザ基金
	10日	生きもの調査	
	13日	第6回達人「二の草取り」	
	18日	プロジェクト打合	
	27日	第7回達人「三の草取り」	
7月	4日	第8回達人「大豆播種」	
	11日	第2回イベント「草取り」1回目	
	18日	第2回イベント「草取り」2回目	
	25日	第9回達人「畑手入れ」	
8月	1日	第10回達人「畑手入れ」	
	29日	第11回達人「畑手入れ」	
9月	19日	第12回達人「リッツオウ作り」	
10月	1日	プロジェクト打合	アサザ基金事務所
	10日	第13回達人「稲刈準備」	
	17日	第3回イベント「稲刈り」	
	31日	第4回イベント「脱穀」	
11月	8日	第14回達人「ワラ収穫」	NEC 本社
	10日	プロジェクト打合	
	23日	第15回達人「大豆収穫」	
	29日	第16回達人「大豆収穫」	
12月	5日	第17回達人「大豆脱穀」	
	12日	第18回達人「堆肥作り」	
	23日	第19回達人「縄ない」	
2010年1月	9日	第20回達人「堆肥切り返し」	
	16日	第5回イベント「仕込み」	
	23日	第21回達人「一日蔵人・洗米」	
	24日	第22回達人「一日蔵人・自然観察」	
	30日	第23回達人「山掃除」	
2月	13日	第24回達人「堆肥づくり」	
	20日	第25回達人「竹炭焼き」	
3月	6日	第26回達人「山掃除」	
	13日	第6回イベント「蔵出し」	

4. 収支報告

委託費	5,998,740
-----	-----------

(支出)

環境意識啓発体験フィールド借り上げ費用	155,070
栽培管理委託費用	750,000
体験プログラム人件費(交通費・管理費含)	2,343,670
醸造委託製造費	2,750,000
支出計	5,998,740

○ 三井物産谷津田再生プロジェクト

(三井物産(株)三井物産環境基金委託 2007年から3年目)

アサザ基金で行っている霞ヶ浦流域での自然再生事業と三井物産環境基金のボランティア活動が連動し、三井物産役職員とその家族を対象に、環境意識の向上と基金活動への参加意識醸成を目的に、米作りなど谷津田再生を通じた年間の自然体験プログラム「谷津田再生プロジェクト」を実施しました。

1. 業務内容

- (1) 三井物産役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) プログラムを実施する谷津田の借り上げ手配
- (3) 谷津田における維持管理、基盤整備、米作りの業務
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) 谷津田の再生を評価するための調査
- (6) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2009年度は6回の個別プログラムを実施しました。

全社行事	田植え (5/30)	70名
	草取り (6/27と7/25)	81名
	稲刈り (10/24)	69名
	酒仕込み・谷津田整備 (1/16)	52名
	新酒蔵出し・谷津田整備 (3/6)	59名

3. 収支報告

(収入)

委託費	6,090,000円
-----	------------

(支出)

業務委託費	醸造委託製造費	1,260,000円
	初期経費(事業計画・基盤整備など)	2,100,000円
	個別プログラム経費	2,730,000円
合計		6,090,000円

○ 損保ジャパン環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした
援農プロジェクト (2006年度から4年目)

霞ヶ浦の主な水源は、流域に無数に分布する谷津田です。機械での耕作が難しい谷津田は、減反政策の影響もあり荒廃しています。霞ヶ浦ではこのような荒れた谷津田の再生が課題となっています。一方、社会問題が複雑化している昨今、より総合的な考えを持ち調整、提案、実行力のある人材が求められています。損保ジャパン環境財団は「木を植えるより、木を植える人を育てたい」というビジョンの下、社員の寄付によって学生に環境NPOで働く機会(CSOラーニング制度)を提供していますが、より実体験をとおした機会を学生に提供したいという意図があります。トキが舞う霞ヶ浦・北浦という100年計画を共有しながら協働することで、各々の課題を達成することを目的としています。

1. 事業報告

(1) 対象地 茨城県石岡市半田

(2) 事業経過

イベントを6回、学生の自主活動を2回行い、のべ235名の参加がありました。農作業の指導と生物観察などを実施しました。

2009年度は、これまでほとんど参加のなかった損保ジャパン社員がのべ98名参加し、学生と社員が交流することで、学生の人材育成、社員の環境意識を向上につなりました。また、学生がより主体的に企画・運営ができる体制を整えることで、学生ならではのアイデアでイベントが企画され、より楽しく、交流ができ、意義の共有が進むプログラムを実施することとができ、参加者の環境問題への理解・満足度が増しました。

日	作業名	参加者	作業内容
3/28	田起こし	38	畦直し・水路整備・田起こし
4/26	自主活動	5	代掻き・畦直し

5/9	田植え	46	手植え・どろんこパレー（学生のアイデア）
5/23	草取り①	7	草取り（手押し除草機を使用）
6/27	草取り②	35	草取り・ホタル観察
8/3	自主活動	6	水路整備・霞ヶ浦見学
9/12	稲刈り	42	稲刈り・生物観察会・藁ない体験など
9/26	脱穀	41	脱穀
11/28	新米試食会	15	ひょうたんぼ米の試食・来年の目標設定

2. 収支報告

（収入）

協賛金	400,000 円
-----	-----------

（支出）

プログラム提供費	216,000 円
雑費	164,000 円
その他地主謝金など	20,000 円
合計	400,000 円

○ UBS RICE Project

（UBS証券会社との協働事業 UBS証券会社委託 2008年度から3年目）

霞ヶ浦・北浦の水源地保全、生物多様性の保全、地域活性化、国際交流、環境教育の場の提供、社員の環境意識の向上を目的に、RICE（Rural Investment in the Community and Environment）プロジェクトを実施しました。

1. 業務内容

- (1) 棚田・谷津田の回復
- (2) 子どもたちへの環境教育
- (3) 棚田・谷津田での米作り（田起し、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅づくり、日本酒酒醸造）
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2009年度は鹿嶋市山之上において3回（2008年度から2年目）、今年度から新たに潮来市清水において5回の個別プログラムを実施しました。（純参加者数）

鹿嶋市山之上 田植え（6／14）

35名

	稲刈り (10/25)	35名
	もちつき (1/24)	53名
	参加者合計	123名
潮来市清水	田植え (5/16)	59名
	草取り (7/5)	36名
	稲刈り (10/24)	75名
	仕込み (1/24)	53名
	蔵出し・谷津田整備 (3/13)	29名
	参加者合計	252名

3. 収支報告

(収入)

委託費	6,000,000円
-----	------------

(支出)

業務委託費	棚田・谷津田の回復	2,000,000円
	田管理	900,000円
	子どもたちへの環境教育	500,000円
	米づくりプログラム	600,000円
	餅づくり、酒醸造	1,500,000円
	マネジメント・コーディネーション	500,000円
合計	6,000,000円	

○ 「UBSの森づくり」 UBS証券会社、牛久市との協働事業 (UBS証券会社の寄付による牛久市委託 2年目)

霞ヶ浦流域の水源地の保全・再生、また緑化推進および地球温暖化防止のための二酸化炭素吸収源対策として、牛久市本来の里山づくりを行うことを目的に、霞ヶ浦水源の森づくりのための植樹を行いました。

この事業はUBS証券会社が牛久市に寄付(ふるさと納税制度を利用)し、牛久市がアサザ基金に委託するかたちで実施されました。

1. 業務内容

- (1) 植樹イベントの実施
- (2) 整地作業
- (3) 植栽用支柱、看板設置
- (4) 植樹前植生・生物調査
- (5) 植栽維持管理

2. 事業報告

UBS証券会社社員及び家族による植樹イベントを実施しました。

植樹イベント（4／25）

参加者60名、植栽本数90本

3. 収支報告

（収入）

委託費	2,997,500円
-----	------------

（支出）

業務委託費	植栽イベント費	2,573,500円
	植樹後維持管理費	264,000円
	管理費	160,000円
合計		2,997,500円

○ ホギメディカル・牛久市協働谷津田再生プロジェクト

（株）ホギメディカル委託 2年目）

アサザ基金で行っている霞ヶ浦流域での自然再生事業と連動し、ホギメディカルの役職員及びその家族を対象に、環境意識の向上を目的に、米作りなど谷津田再生を通じた年間の自然体験プログラム「谷津田再生プロジェクト」を実施しました。

1. 業務内容

- (1) ホギメディカルの役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) 谷津田における維持管理、基盤整備、米作りの業務
- (3) 個別プログラムの実施
- (4) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2009年度は5回の個別プログラムを実施しました。（純参加者数）

全社行事	田植え・自然観察（6／6）	144名
	草取り・自然観察（8／1）	94名
	稲刈り・自然観察（10／31）	69名
	地酒仕込み（1／23）	44名
	新酒蔵出し（3／27）	31名
参加者合計		382名

3. 収支報告

（収入）

委託費	4,620,000円
-----	------------

(支 出)

業務委託費	水田管理費(事業計画・基盤整備など)	1,050,000円
	個別プログラム経費	2,310,000円
	酒醸造委託費	1,260,000円
合計		4,620,000円

○ 緊急雇用対策としての谷津田再生事業 (牛久市委託 新規)

自然と共生するまちづくりのモデルとして谷津田の再生と環境の保全をはかるとともに、新しい農業の在り方を探ることを目的に、水田の復元及び管理等の業務を行いました。

また、本業務は離職を余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者等の失業者に対して、次の雇用までの短期の雇用・就業機会を創出・提供する等の目的で国が交付する補助金により実施されました。

1. 業務内容

- (1) 水田の復元(除草、耕運、くろぬり、代掻き、除根等)及び管理
- (2) 草刈等管理、水路補修及び生物調査

2. 事業報告

2009年度は合計15名の従事者(緊急雇用者)により、8月から週3回ペースで水田の復田作業等の業務を実施しました。

対象面積：12,000㎡

復田面積：約1,900㎡

3. 収支報告

(収 入)

委託費	6,227,550円
-----	------------

(支 出)

業務委託費	人件費・交通費・農機具購入費等	6,227,550円
合計		6,227,550円

○ 霞ヶ浦・北浦の水源地となる里山の保全事業

市民ボランティア「一日きこり」の実施(1997年から継続)

霞ヶ浦・北浦に良質な水を供給するために、荒廃した谷津田や周辺森林の保全に努めています。下草刈りや間伐などの森林管理作業にボランティアを募り、10月～3月に5回行いました。NPOエコタウンほこたと連携し銚田市ならびに牛久市で、アズマネザサなどの下草刈りを始め、除伐、森あそび、動植物観察などと多岐にわたる内容で実施しました。

一日きこり実施結果 2009/4~2010/3

実施場所	実施日	参加者
銚田市野友	2009. 4. 12	22
銚田市野友	2009. 10. 25	9
銚田市野友	2009. 12. 20	5
牛久市遠山	2010. 1. 31	4
牛久市遠山	2010. 3. 20	8
計	5回	48名

● 地域循環型社会構築に関わる事業

○ 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業 (2004年度から6年目)

1. 事業の概要

霞ヶ浦では外来種問題が深刻な状況にあります。外来魚や未利用魚を漁業者から買い上げて魚粉化し、肥料や家畜の餌として農業に使用してもらい、生産された農産物はブランド化して販売するという、環境保全を組み込んだ地域活性化の事業を2004年に提案しました。

外来魚や未利用魚を捕獲することで、栄養塩類（チッソ及びリン）を効率的に回収し、湖沼水質の浄化を図ります。魚粉を農業の栄養素として利用することで、流域外から持ち込まれる肥料等の削減を図ります。生産した農作物は霞ヶ浦流域のブランド（湖がよるこぶ野菜たち）として販売、消費者は野菜を手にとることで湖・地域への環境意識が啓発されます。この事業が自立して軌道に乗れば、在来魚の豊富な湖と生物多様性、人々と湖の絆を取り戻すことができると期待されます。

2. 事業報告

今年度も環境パートナーシップ市民事業の事務局として業務を行いました。

外来魚の水揚げの状況を下に示します。北浦はきたうら広域漁協に、霞ヶ浦は霞ヶ浦漁連に依頼して水揚げを行いました。

水揚げ委託費と事業化に係る人件費は三井物産環境基金、日立環境財団からの助成金をあてました。魚粉化に係る費用は環境パートナーシップ市民事業から支出しました。そのうち一部の外来魚水揚げ費および魚粉化費用は次項掲載のキャノンマーケティングジャパン株式会社との協働事業から支出しました。

◆2009年度 外来魚水揚げ・魚粉化状況

2009年12月に計30tの外来魚の水揚げを実施しました。魚粉化は成田市の中央飼料(株)

に依頼し、出来上がった魚粉は 5400kg でした。できた魚粉は環境パートナーシップ会員を主体とし、イオンアグリ創造流域の農家などに領布しています。今後、より一層の魚粉の使用先を開拓していきます。

2005 年からトータルで、窒素 8695kg、リン 2434kg を湖から回収することができました。

◆助成金の収支

＜水揚に関する費用＞

三井物産環境基金から 75 万円、日立環境財団から 40 万円を外来魚未利用魚の水揚げ費用として、充てました。

＜事業運営人件費＞

日立環境財団から 40 万円を人件費に充てました。

◆流域ブランド「湖がよろこぶ野菜たち」

今年度も JA やさとの「きゅうり」は通年でカスミ（株）の 23 店舗で販売。季節毎にソラマメ、キヌサヤ、ブロッコリー、ゴボウなどがカップちゃんシールをつけて出荷されました。

○ 「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」

キャノンマーケティングジャパン株式会社協働事業（2009 年度から新規）

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、廃食油の B D F 化と利用推進等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを今年度から進めていきます。2009 年度は外来魚の駆除・魚粉化を実施しました。

収 支 報 告

(収 入)

人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築	1,000,000 円
------------------------	-------------

(支 出)

企画調査費	300,000 円
外来魚水揚げ委託費	500,000 円
魚粉加工委託費	200,000 円
合計	1,000,000 円

○ 「牛久市バイオマスタウン構想の推進協力、市民への普及」

(2007 年度から継続)

アサザ基金の提案が実を結び、牛久市とともに地域循環型社会構築や脱地球温暖化に向けた取り組みを始めることとなりました。昨年その第一歩として牛久市バイオマスタウン構想の策定を行いました。今年度はバイオマスタウン構想の展開に合わせた学習プログラムを牛久市立下根中学校で進め、年度末には牛久市バイオマスタウン構想を地域ぐるみの取り組みへと広げて行くために、中学生がポスター掲示などの活動を展開しました。また4月には約7haの耕作放棄地を再生し、初めての菜の花の開花を迎え、牛久菜の花祭りが開催されました。

○ 「廃食用油バイオディーゼル燃料化事業」 (2009年度から新規)

牛久市バイオマスタウン構想の推進について、茨城県の緊急雇用対策事業の一つであるふるさと雇用再生事業を牛久市から受託し、バイオディーゼル燃料の製造、原料となる廃食油回収などを実施するための新規人材を2名雇い、事業を進めています。

これまでできたBDFは牛久市の公用車、ゴミ収集車、(株)カスミの商品配送車などで使用し、計19,800リットルのBDFを生産、使用しています。これによってCO2排出量で51.1tの排出削減が図られました。

収支報告
(収入)

廃食油バイオディーゼル燃料化事業業務委託費	5,348,000円
-----------------------	------------

(支出)

人件費	3,084,230円
業務運営費	2,263,770円
合計	5,348,000円

● 複数の助成にかかわる事業など

○ 「アサザプロジェクト～環境を機に活性化する地域社会」

(三井物産環境基金助成事業 2009年10月～2012年9月)

三井物産環境基金より2008年度に引き続き、下記の活動に対して助成をいただくことになりました。今年度は、より多様な主体を巻き込んで、実社会に環境保全・再生機能を組み込んでいくこと。また、活動範囲を流域に限定することで、“100年後、トキが舞う霞ヶ浦”の実現をより確実なものとすることを目指します。

- (1) “生きものと共生するまちづくり”学習プログラムの流域展開
- (2) 地産地消による地場産業の活性化と循環型社会構築
- (3) “アサザ”“天然ウナギ”復活に向けた政策提言と流域内の合意形成

1. 事業報告

(1) “生きものと共生するまちづくり”学習プログラムの流域展開に関して

干拓地にある稲敷市立新東小学校において、“アカトンボ米”を地域ブランドとして提案するブランド作り授業を行いました。地域の資源を“田んぼ”と位置づけ、“アカトンボ”を良好な水田環境の指標生物として、生息調査を行いました。牛久市内の神谷小では、“地域ぐるみで取り組む雨水対策”、二小では“生きものも喜ぶ田宮西隣公園”、岡田小では“生きものも喜ぶ上池親水公園”というまちづくり授業をすすめて、市に提案しました。

(2) 地産地消による地場産業の活性化と循環型社会構築に関して

荒廃水源地保全再生モデルから生まれたバイオマスのうち、酒米を利用したオリジナル酒（生物多様性日本アワードグランプリ受賞記念セット）の販売、米粉を利用した“まじめな漁師せんべい（品名検討中）”の販売（有限会社大形屋との協働）、販売先の新規開拓、販売戦略の検討、販売戦略実現のための調整等を行いました。

(3) “アサザ”“天然ウナギ”復活に向けた政策提言と流域内の合意形成に関して

流域の子供たちがこれまで取り組んできた学習の成果でもある“アサザ”群落の保全にむけ、国交省霞ヶ浦河川事務所に対して「冬期の水位上昇管理の見直し」や「導水事業の代替案として逆水門の柔軟運用の提案」を県内の国会議員や国土交通相、環境相に要望しました。また、霞ヶ浦・北浦元気シンポジウム実行委員会の委員として、潮来市での地域懇談会に参画し、話題提供と討論をとおして、流域の合意形成を促しました。

2. 収支報告

(収入)

助成金	¥ 6,000,000
-----	-------------

(支出)

人件費	¥1,730,434
交通費	¥90,720
備品購入費	¥71,304
作業委託費	¥1,093,400
借料	0
会議費	¥3,000
印刷費	¥99,669
通信費	¥113,357

その他	¥40,602
合計	¥3,242,486
残金 2,757,514 円は次年度に繰り越し	

○ セブン-イレブンみどりの基金 「特別指定助成」
(助成期間：2010年3月1日～2011年2月)

セブン-イレブンみどりの基金から、組織運営費（家賃・人件費）として年間 3,300,000 円の助成をいただきました。アサザプロジェクトの展開を図る上で、基盤とする組織運営費に対する助成です。期間は3年間で2012年2月までの予定です。

収 支 報 告

(収入)

助 成 金	3,300,000円	2010年3月～2011年2月 (家賃7万5千円+給与20万円)×12月
収 入 合 計	3,300,000円	

(支出)

組 織 運 営 費	3,300,000円	家賃・給与 (家賃7万5千円+給与20万円)×12月
計	3,300,000円	

○ 東京電力株式会社社員受け入れ

平成16年度から東京電力株式会社社会貢献の一環として、派遣社員1名を受け入れていきます。平成22年度も継続しました。

(主要内容)

派遣期間	平成16年7月1日から平成24年3月31日
勤務内容	・水源地保全の酒米づくり作業
	・アサザなどの植生作業補助
	・雑木林の手入れ作業補助
	・その他当法人の事業に付帯する一切の業務補助

○ インターン受け入れ

・「損保ジャパンCSOラーニング制度」から3名のインターン生を受け入れました。今年度は牛久市内に新たに活動場所としての田んぼを探し、地主さんとの交渉も行いました。また、石岡市ひょう田んぼの援農支援も継続して実施しました。

・筑波学院大学のオフ・キャンパス・プログラムから2名の研修生を受け入れました。8月～11月の土日を利用して30時間アサザプロジェクトの活動を体験していただきました。その体験談が常陽新聞（2011/3/3）に掲載されました。

・沖縄県キャリアセンターから支援を受けて、沖縄国際大学の学生2名を各2週間受け入れ、様々な活動に従事していただきました。地元での活躍を期待しています。

● 自主事業

○ アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」が2つの酒蔵店（白菊酒造<石岡>、田中酒造<取手>）で製造、茨城県内カスミ12店舗やジャスコ土浦店で販売されています。（2008年12月～）年末には2本セットの贈答用も登場し、第一回生物多様性日本アワードを受賞（2009年10月9日）したお酒として、環境保全の功績をアピールしました。売り上げは好調で、その一部は水源地再生活動にご寄付いただくことになっています。

○ 湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

霞ヶ浦再生ブランドのせんべいを、大形屋商店さんと協働開発を始めました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的とし、密漁をしない漁師から仕入れたざざえび、水源地再生事業で無農薬栽培米からできた米粉を使用しています。1袋500円で大形屋商店にて販売しています。

○ アサザの植付会

アサザの植付会を里親や一般市民に呼びかけ、植生帯復元事業と連携して実施しました。

実施日	行事名	場 所	参加者
7/26	アサザの植付会	かすみがうら市根田	34名

また、恒例となっている新宿カッパ村様（7/21 20名）やイオンチアーズクラブ様（8/18 45名）、ジャスコ水戸店様（8/27 15名）、（株）ツムラ様（9/4 19名）の植え付け会も実施しました。ご支援ご協力に感謝申し上げます。

○ トンボのスケッチ会

8月20日に、牛久市立神谷小学校に隣接するカワセミの郷（児童の提案によって再生が実現した霞ヶ浦水源地）にて、（株）トンボ様協賛によるスケッチ会を行いました。幼稚園児から中学生まで15名が集まり、画用紙に大きく元気に、谷津田の生きものをスケッチしました。準備には神谷小学校や地域自治会の協力をいただきました。

○ アサザのお花見会

今年度はアサザの開花が見られないため、お花見会の開催を取りやめました。アサザ基金では、冬期の水位上昇管理がアサザ群落を含めた植生帯に悪い影響を与えていると考えています。そのため、国土交通省に冬期の水位上昇管理中止を求める要望書を提出して改善を求めています。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」を2010年3月、2010年8月、2011年1月の3回発行し、会員の皆様や関係団体、諸機関などに配布しました。(発行部数/毎号 約1200部)

○ ホームページ運営

- 大きくデザインの変更を行い、より見やすく・情報の探しやすいページにしました。
- 各イベントの案内や最新情報を、会員や参加者向けに発信しました。
- 協働事業など、各プロジェクトを紹介するページを作成し、発信しました。

○ 講演、視察研修の受け入れ

2010年4月～2011年3月までに視察研修を11団体238名受け入れました。参加者は大学や企業、行政、市民団体などで、それぞれが高い関心を持ち、アサザプロジェクトの活動現場では地元の支援者との交流も行いました。各地で開催されるシンポジウムや講演会、大学の講義などに代表理事の飯島や顧問の牧が講演者やパネラーとして34回出席し、アサザプロジェクトの紹介に努めました。

○ 政策提言

アサザの開花が見られないなど、霞ヶ浦の植生に問題が生じていることをうけ霞ヶ浦河川事務所や国土交通大臣、環境大臣等に「霞ヶ浦の冬期水位上昇管理の中止」を求める要望書を提出しました。また、2009年10月の民主党政権発足に伴い、霞ヶ浦導水事業が凍結となったことから、「導水事業の代替案として常陸川水門の柔軟運用の提案」を求める要望書を、国土交通大臣等に提出しました。2010年3月にはこれらの問題に関して国土交通省の担当者に質問書を提出し、前原国土交通相と面会して代表の飯島が要望に関する説明を行いました。大臣からは至急検討するとの回答を得ました。

○ 霞ヶ浦ゆめ基金へのご寄付をありがとうございました。

2009年度は総額249,045円のご寄付をいただきました。活動資金の不足しています、霞ヶ浦流域の環境学習に活用させていただきました。このご寄付により1,245名の子ども達に出前授業を提供することが出来ました。

アサザプロジェクトに関する

● 講演

<4月>

27 UBSでランチタイムセミナー(東京都)

<5月>

16 APEXセミナー(東京都)

<6月>

16 一新塾25期第1回講義(東京都)

24 三井物産講演(東京都)

<7月>

27 土木学会シンポジウム(東京都)

<8月>

8 秋田子どもフォーラム(秋田県)

16 表参道風船トーク1回目(東京都)

20 生物多様性シンポ(守谷市)

<9月>

14 関東弁護士連合会環境委員会勉強会(東京都)

23 日本ペンクラブ環境委員会映画祭(東京都)

25 社会企業大学第9回オープンセミナー(東京都)

<10月>

5 表参道風船トーク2回目(東京都)

9 桑袋BT公園勉強会

14 JST理科教育支援センター勉強会

31 東北大学PEM講義

<12月>

22 国際ボランティア学生協会(東京都)

<2月>

5 サイエンスフェスタ(牛久市)

9 表参道風船トーク3回目(東京都)

15 筑波大学The 11th EDL Seminar

17 八郎湖水質対策連絡協議会にて講演(秋田県)

19 シンガポール大学霞ヶ浦ツアー(牛久市)

講演・視察・展示・報道等

28 第21回GISPRIシンポジウム(東京都)

<3月>

4 里山グローバル・マネジメント(大阪市)

9 新しい公共勉強会(東京都)

● 視察

<6月>

27 ひょうたんぼ霞ヶ浦ツアー

<8月>

11 三島市中学生環境リーダー研修

27 埼玉市民活動グループ

<9月>

17 松戸商工会議所

<10月>

18 土浦市議会常陸川水門見学研修会

<11月>

19 公共事業チェック議員の会

<12月>

11 UBS新入社員研修

15 積水ハウス水揚げ体験

17 北総地域水産資源研究会

● 委員会・会議

<4月>

1 前原国土交通相と面談

6 牛久市長と面談

29 アサザ基金第1回理事会

29 アサザ基金第12期総会

<5月>

12 損保ジャパンラーニング生面接

20 アサザプロジェクト参加企業交流会

21 まちづくり実行委員会

<6月>

5 ラムネット総会

<8月>

18 学生環境サミットミーティング

<9月>

- 6 GISPRI 研究委員会（東京都）
- 8 ヒシクイ保護基金との会合（牛久市）
- 29 松戸市長と面会（松戸市）
- 29 アサザ基金第2回理事会
<11月>
- 2 霞ヶ浦漁連との会合（土浦市）
- 8 小泉政務次官面会（東京都）
- 8 GISPRI 研究委員会（東京都）
- 9 牛久市まちづくり実行委員会（牛久市）
- 10 牛久市長と面談（牛久市）
- 25 常陸菜の花ネットワーク総会（つくば市）
<12月>
- 7 環境P会議（牛久市）
- 8 NEC会議（我孫子市）
- 16 安富研セミナー（東京都）
- 16 GISPRI 研究委員会（東京都）
- 19 八郎湖霞ヶ浦交流会（秋田県）
- 22 三井物産謝恩会（東京都）
- 23 葉梨議員面会（美浦村）
- 27 土浦市長面会（土浦市）
<1月>
- 6 UBS証券企画会議（東京都）
- 15 第18回霞ヶ浦元気シンポ実行委員会
（小美玉市）
- 19 鹿嶋市長面会（鹿嶋市）
- 28 アサザ基金第3回理事会
<2月>
- 15 アサザ基金第4回理事会
<3月>
- 2 常陸菜の花ネットワーク会合（つくば市）
- 3 NEC企画会議（我孫子市）
- 展示
<4月>
- 15 アースデイつくば（つくば市）
- 16～22 アースデイ鹿嶋（鹿嶋市）
- 20 CSOラーニング生説明会
<8月>
- 20 生物多様性シンポ
- 22 うしくみらいエコフェスタ
<9月>
- 25～2011/1/10 すばらしき地球の仲間たち in東京タワー
<2月>
- 19～26 つくば市民活動フェスティバル
- 記者発表
<6月>
- 9 キャノンMJとの活動（事務所）
- 30 アサザの里親大募集（土浦記者クラブ）
<9月>
- 29 表参道の取組について（土浦記者クラブ）
<3月>
- 11 常陸川水門柔軟運用アンケート（土浦記者クラブ）
- 受賞式・授与式
<4月>
- 11 ジャスコ鹿嶋店イエローレシート贈呈式（鹿嶋市）
- 13 ジャスコ土浦店イエローレシート贈呈式（土浦市）
<6月>
- 7 アサヒビールから寄付授与（守谷市）
<2月>
- 28 真如苑一如社から寄付（立川市）
- テレビ・ラジオ報道
<6月>
- 17 J-WAVE 「RENDEZ-VOUS」電話インタビュー
<8月>

<8月>

16 SHIBUYA-FM 「SHIBUYA VILLAGE VOICE

21 NHK BS-2 「MISIA 星空のライブ VI」

<9月

アサザプロジェクトに関する公表成果・新聞記事

● 関連公表成果

- 関口威人「アサザと粗朶」ぼくたちは何を失おうとしているのかーホンネの生物多様性 人間社 樹林舎叢書
- 小島 望「自然再生の先駆け「アサザプロジェクト」」生物多様性と現代社会 農文協
- 野中郁次郎・勝見明「ケース 5 霞ヶ浦の奇跡 アサザプロジェクト」イノベーションの知恵 日経BP社
- 関口 威人「故きに学び 新しき治山、治水へ」CEL vol. 95 January 2011
- 飯島 博「一石何十鳥もの効果を生む新しい 共事業 市民型公共事業 霞ヶ浦アサザプロジェクト」国づくりと研修 128 2011 (財)全国建設研修センター

● 関連記事掲載雑誌

- 「外来魚を堆肥にして環境保全につなげる活 NPO 法人アサザ基金」PaCoMa 2010 5 Vol. 148
- 「事例 3 NPO 法人アサザ基金 住民、行政、企業とともに広がる活動 「協働」というパートナーシップが生み出す地域のネットワーク」事業型環境 NPO・社会的企業になるためのポイント集 平成 22 年 3 月環境省
- 「地球温暖化！自治体はどう応えるか パネ ディスカッション」都市問題 公開講座ブックレット 19 (財)東京市政調査会
- 「環境基金 谷津田再生プロジェクト第 2 回 ログラム草取りと生物調査」MBKLIFE vol. 47 No. 3 2010 7-8
- 「湖をきれいにしたい！～玉造西小 3・4 年生アサザ植え～インタビュー-NPO 法人アサザ基金」市報なめがた 2010 8 No. 60
- 「地域コミュニティ ここが元気だ！茨城県 霞ヶ浦アサザプロジェクト」KAERU RYOKU (株)NTT データ
- 「10 周年によせて Message」損保ジャパン CSO ラーニング制度 10 周年記念誌
- 「ゲンキな田舎 役所や企業はもう敵じゃない 協働力で新しい価値を創るとき」BE-PAL 2010 年 11 月号 No. 356

- 「動き出したさまざまな取り組み 茨城県 霞 浦流域 湖が喜ぶ野菜たち」aff ⑨ September 2010
- 「外来魚が野菜を育てる!? 食卓も喜ぶ 「湖がよるこぶ野菜たち」自給自足 2011 Vol. 32 冬
- 「この人に聞く 飯島博さんに伺いました」 木学会誌 Vol. 95 No. 12 December 2010
- 「霞ヶ浦再生へ逆水門の柔軟運用を」週刊社会 1/1
- 「NEC グループの生物多様性保全に向けた取り組み」コンセンサス Nov. Dec 2010 11-12 NUA NEC
- 「アサザを植えて湖の自然を回復させよ」実践！体験！みんなでストップ温暖化学研 2011 年 2 月
- 「受賞団体の取り組み事例 優秀賞一大企業 部門日本電気株式会社」GNP 第 78 号 2011 年 2 月号

● 新聞記事

- 「前向き回答得た」牛久の NPO 国交相に霞ヶ浦浄化策など」朝日 4/3
- 「霞ヶ浦 「水位下げられるか検討」前原 国 相、アサザ基金に」毎日 4/3
- 「牛久市、中学生のポスター掲示 廃油回収呼び掛け」茨城 4/3
- 「水源の森づくりへ植樹 牛久 霞ヶ浦つながる里山保全」産経 4/4
- 「みんなの力で変える環境 実践科目 B 活動報告 情報メディア学科幕内雄紀」常陽 4/15
- 「牛久・谷津田で生物調査 アサザ基金と NEC 水源地再生の効果検証」東京 5/4
- 「散歩道 児童らと田植 鹿嶋」毎日 5/10
- 「大学生ら対象 “田んぼの学校”」読売 5/17
- 「ビオトープを生きものと人が集う場に～生 多様性に目を向ける環境教育～牛久市立神谷小学校」日本教育新聞 5/24
- 「循環型社会構築へ アサザ基金 キャンペーン MJ と協働事業」産経 6/11

- 「地球に優しい「エビせんべい」企業などと連携 アサザ基金が製造へ」東京 6/12
- 「アサザの里親募集 NPO 法人「霞ヶ浦水位上昇で激減」茨城 7/1
- 「アサザの里親募集 NPO アサザ基金 苗を無料配布」常陽 7/1
- 「霞ヶ浦の水生生物「絶滅の危機」アサザの親になって 鹿嶋・土浦で苗配布へ」朝日 7/2
- 「IT 水田にトキを Cop10 生物多様性を守れ 国内の取り組み②」日経 7/4
- 「身近な所から地球環境 多良間小飯島博さん 自然学習」宮古新報 7/8
- 「霞ヶ浦のアサザ群落が絶滅危機 NPO 苗増やし里親募集」毎日 7/17
- 「行方の児童が苗を植え付け」毎日 7/17
- 「霞ヶ浦湖畔にアサザ植え付け 小美玉・玉里東小児童」茨城 7/18
- 「アサザ増やそう！ 玉造西小3・4年生 霞ヶ浦の植え付け」茨城 7/20
- 「利根往来 アサザの保護に行政の協力必要」日経 8/10
- 「生物多様性 動き出す企業 環境対応に市場の視線」日経 8/14
- 「霞ヶ浦のアサザ復活を 行方 NPO が植え付け会」茨城 9/6
- 「アサザの花 かれんに咲く 霞ヶ浦の浮島地区」東京 9/6
- 「アサザ群落が満開 美浦の霞ヶ浦」常陽 9/9
- 「損保ジャパン 霞ヶ浦でアサザ植え付け 100年後を見据えた環境づくりに貢献」保険毎日新聞 9/9
- 「また夏?! ヒマワリ満開」産経 9/11
- 「アキアカネ生態学学ぼう 児童が羽にマーカーキング 五城目大川小」秋田さきが 9/16
- 「再生した谷津田に実った稲穂 牛久市立神谷小児童地域住民らと収穫」常陽リビング 10/2
- 「さあ、本格栽培 わが町の宝 お茶です 大紀・七保小」中日新聞 10/7
- 「耕作放棄地再生田んぼで稲刈り」読売 10/17
- 「なじみの宝でいざ町おこし 大紀茶栽培本格的に開始」中日新聞 10/17
- 「柔軟運用で意見交換 土浦市議ら現地視察」茨城 10/19
- 「逆水門の柔軟運用意見書採択で土浦市議ら現地視察」常陽 10/19
- 「もうすぐ校庭にビオトープ 足立の小学校 児童が設計」産経 10/20
- 「常陸川水門“柔軟運用を”市議会議長会決議 国に要望へ」朝日 11/3
- 「常陸川水門柔軟運用を 県市議会議長会 国交省に要望書提出へ」常陽 11/3
- 「耕作放棄地でヒマワリ収穫」読売 11/7
- 「ビオトープ完成児童うれしい」産経 11/11
- 「霞ヶ浦導水を視察 公共事業チェック議員の会 水戸」茨城 11/20
- 「耕作放棄地を生物のつどいの場につなげる「ヒマワリの搾油体験」と生き物が集まる「ビオトープづくり」読売 広告 11/24
- 「サテラの恩返し つづく NPO 法人アサザ基金 茨城県」日経 12/6
- 「霞ヶ浦再生へ 逆水門の柔軟運用を」週間新社会 1/1
- 「地球と暮らす 128 アサザ基金 住民の関心を取り戻す」毎日 1/10
- 「恐竜や昆虫やカエルの生態 暁秀初等学校 環境を考える授業」沼津朝日 1/22
- 「いま、オフィスで農と向き合う 田んぼで泥んこ 笑顔呼ぶ」朝日 2/10
- 「霞ヶ浦再生 次世代への想いを知って 実践科目 B 活動報告 山岡大輔」常陽 3/3
- 「開閉に慎重姿勢 常陸川水門で知事答弁」毎日 3/9